

一関工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	人文社会科学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0022		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		4		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	必要に応じて、適宜プリントを配布します。						
担当教員	平林 一隆,松浦 千春,千田 芳樹,海野 洋平						
到達目標							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-1、B-2 近代社会とは何かを理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
近代社会		近代社会について十分に理解・説明ができる。		近代社会について一定程度の理解ができる。		近代社会について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	＜近代＞を統一テーマに置き、人文社会科学の担当者が専門分野を活かして講義を行うことにより、分野横断的な学習を可能にすることを通じて、多角的に事象を捉える能力を涵養することを目的とする。						
授業の進め方・方法	授業担当者が統一テーマのもと講義を行い、その後グループ学習と発表を行うことにより、講義内容を深く理解する手段とする。 授業評価は、グループ学習時に配布する所定の報告書を提出してもらうことで行う。						
注意点	講義の場合には第一講義室、グループ学習の場合には各教室に別れて行われるので、授業の場所を注意すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		本授業の目的と意義を理解できる。		
		2週	近代への視点：Lecture1		近代への視点：Lecture1の内容を理解できる。		
		3週	近代への視点：Lecture2		近代への視点：Lecture2の内容を理解できる。		
		4週	近代への視点：Lecture3		近代への視点：Lecture3の内容を理解できる。		
		5週	近代への視点：Lecture4		近代への視点：Lecture4の内容を理解できる。		
		6週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代への視点：Lec.1～4を深く理解する。		
		7週	まとめ・発表		近代への視点：Lec.1～4のまとめ・発表ができる。		
		8週	近代の世界：Lecture1		近代の世界：Lecture1の内容を理解できる。		
	2ndQ	9週	近代の世界：Lecture2		近代の世界：Lecture2の内容を理解できる。		
		10週	近代の世界：Lecture3		近代の世界：Lecture3の内容を理解できる。		
		11週	近代の世界：Lecture4		近代の世界：Lecture4の内容を理解できる。		
		12週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の世界：Lec.1～4を深く理解する。		
		13週	まとめ・発表		近代への世界：Lec.1～4のまとめ・発表ができる。		
		14週	近代社会の特性：Lecture1		近代社会の特性：Lecture1の内容を理解できる。		
		15週	近代社会の特性：Lecture2		近代社会の特性：Lecture2の内容を理解できる。		
		16週	前期の総括		前期の総括		
後期	3rdQ	1週	近代社会の特性：Lecture3		近代社会の特性：Lecture3の内容を理解できる。		
		2週	近代社会の特性：Lecture4		近代社会の特性：Lecture4の内容を理解できる。		
		3週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代社会の特性：Lec.1～4を深く理解する		
		4週	まとめ・発表		近代社会の特性：Lec.1～4のまとめ・発表ができる。		
		5週	近代の文化と人間：Lecture1		近代の文化と人間：Lecture1の内容を理解できる。		
		6週	近代の文化と人間：Lecture2		近代の文化と人間：Lecture2の内容を理解できる。		
		7週	近代の文化と人間：Lecture3		近代の文化と人間：Lecture3の内容を理解できる。		
		8週	近代の文化と人間：Lecture4		近代の文化と人間：Lecture4の内容を理解できる。		
	4thQ	9週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の文化と人間：Lec.1～4を深く理解する		
		10週	まとめ・発表		近代の文化と人間：Lec.1～4のまとめ・発表ができる。		
		11週	近代の現代的意義：Lecture1		近代の現代的意義：Lecture1の内容を理解できる。		
		12週	近代の現代的意義：Lecture2		近代の現代的意義：Lecture2の内容を理解できる。		
		13週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の現代的意義：Lec.1～2を深く理解する。		
		14週	まとめ・発表		近代の現代的意義：Lec.1～2のまとめ・発表ができる。		
		15週	後期の総括		後期の総括		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前2
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前3
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	前8
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	前8
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前8
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	前8
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	後6
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	後6
				現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	後11
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	後11
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	後11
		グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前15
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前15
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前15
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	前15

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
近代社会	0	0	0	0	0	100	100